

第1章 - 4 19世紀欧米の文化

1. 18世紀の文化

理性の重視 (→啓蒙主義)、普遍的価値の追求 (→自然法思想) →市民革命へ

古典主義 (classicism) ……均整・形式美を重視する文化

- 文学… (独、1749-1832)、 (独、1759-1805)
 ※ 1770年代、疾風怒濤 (Sturm und Drang) = 感情の自然な発露
 「若きウェルテルの悩み」(G)、「群盗」(S)
 →古典主義大成…「ファウスト」(G)、「ヴァレンシュタイン」(S)
- 絵画… (仏、1748-1825、『ナポレオンの戴冠式』)
- 音楽… “ウィーン古典派”
 _____、_____、_____ (1770-1827)

⇕

しかし、自然法・啓蒙思想の結果としての「フランス革命」は「ナポレオン帝政」の出現という矛盾へ (自由の名の下における侵略) →ナポレオンに支配された諸国で「国民主義」の芽生え

2. 19世紀前半の文化・学問

歴史学派……個別の歴史的条件を重視する学問的風潮

- 史学 { _____ (独、1795-1886)
 史料批判による実証史学の初め、近代史学の父
 ドロイゼン (独、1808-84) ……「ヘレニズム」という語の創始者
 ブルクハルト (スイス、1818-97) ……『イタリア・ルネサンスの文化』(1860)
- 歴史学派経済学…… _____ (独、1789-1846)
 自由放任主義は発展途上国に不利→ドイツ関税同盟提唱
- 歴史法学…… _____ (独、1779-1861)
 “民族固有の法”という考え方 (⇔ 普遍的な自然法思想)

ロマン主義 (romanticism) ……均整や理性よりも感情を重視する文化的風潮

- 文学 { 独… ノヴァーリス (1772-1801、『青い花』)
 _____ (ユダヤ系、1797-1856、『歌の本』)
 英 _____ (1788-1824、→ギリシア独立戦争)
 仏 _____ (1802-85、『_____』)
- 美術…… { _____ (1798-1863)『民衆を率いる自由の女神』(→七月革命)
 『キオス島の虐殺』(→ギリシア独立)
 _____ (スペイン、1746-1828)『5月3日の処刑』(→ナポレオンへの抵抗)
- 音楽…… ロマン派
 ドイツ・ロマン派 シューベルト → メンデルスゾーン → シューマン → ブラームス
 ヴァーグナー → ブルクナー → マラー → R・シュトラウス
 _____ (ポーランド-仏、1810-49)、バルレリオーズ (仏、1803-69)

→ 19世紀後半

「国民楽派」……スメタナ、ドヴォルザーク (チェコ)、ムソルグスキー、チャイコフスキー (ロシア) etc.
「イタリア・オペラ」……ロッシニ → ヴェルディ → プッチーニ

しだいに、科学の発達、社会問題の顕在化 → ロマン主義の非現実主義に対する批判

3. 19世紀後半の文化

ロマン主義に対する反動→写実主義、自然主義などへ

写実主義 (realism) ……人間・社会をありのままに描写

- 文学…… _____ (仏、1783-1842、『赤と黒』)
 バルザック (仏、1799-1850)、フロベール (仏、1821-80)
 トウルゲーネフ (露、1818-83、『父と子』)
 _____ (露、1821-81、『罪と罰』)
 _____ (露、1828-1910、『_____』)
- 彫刻…… _____ (仏、1840-1917、『考える人』)
- 絵画…… _____ (仏、1808-79)
 _____ (仏、1819-77、パリ・コミュンに關係して投獄されスイスに亡命、『ブルードンの肖像』)

自然主義 (naturalism) ……人間を科学的に観察し、社会の矛盾や人間性の悪の面を描写

- 文学…… _____ (仏、1840-1902、→ドレフェス事件)
 モーパッサン (仏、1850-93、『女の一生』)
 _____ (ノルウェー、1828-1906、戯曲『_____』 = 演劇史上・女性解放史上も重要)
- 絵画…… _____ (仏、1814-75、『落穂拾い』)
 コロー (仏、1796-1875)

印象派 (impressionnisme, フランス中心)

- 絵画……前期= マネ(1832-83), _____ (1840-1926、『印象・日の出』→派名の由来)
 ドガ(1834-1917), _____ (1841-1919、『ムーラン・ド・ラ・ギャレット』)
 後期= _____ (1839-1906), _____ (1848-1903、→タヒチ島移住)
 _____ (オランダ、1853-90、晩年発狂し自殺)
- 音楽…… _____ (1862-1918、『海』)、 _____ (1875-1937、『ボレロ』)

耽美主義……善悪の倫理的価値を無視し、ただ「美」のみを最高の価値として追及 (aestheticism) ボードレール (仏、1821-67) ……詩集『悪の華』

_____ (英、1856-1900、脱色事件をおこして入獄) ……戯曲『サロメ』

象徴主義……ロマン主義・自然主義の双方に対する反動、象徴的表現を重視 (symbolism) _____ (ベルギー、1862-1949)

『青い鳥』、『ペレアスとメリザンド』(→ドビュッシーがオペラ化)
 ヴェルレーヌ、マラルメ、ランボーの3詩人

4. 科学と思想

_____ (英、1809-82) …… “_____” (1858『_____』)
 「すべての生物は環境に応じて進化する」
 キリスト教的世界観の否定、人間・生物・自然への畏敬の念
 また、社会進化論へも影響

_____ (奥、1856-1939) ……精神分析学
 人間の深層心理の分析により理性への信仰を打ち砕く

※この2人は人間の「人間観」を決定的に変えた。→文化・哲学に大きな影響

マルクスも含めた3人は広い意味での自然主義 (上記説明参照)

<哲学>

◆ _____ 哲学 (イギリス、utilitarianism)
_____ (1748-1832) …… “最大多数の最大幸福” = 民主主義の理想
_____ (1806-73) …… 著『自由論』

◆ 社会学

_____ (仏、1798-1857) …… _____ を提唱、社会学を創始
ハーバート=スペンサー (英、1820-1903) …… 社会進化論 ←ダーウインの進化

◆ ドイツ _____ 哲学 (カント以来)

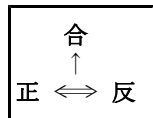
_____ (1762-1814) …… ナポレオン占領下のベルリンで「ドイツ国民に告ぐ」連続講演
言語学者フンボルト (地理学者の兄) の創設したベルリン大学の初代総長に
シェリング (1775-1854)



_____ (1770-1831)
理性の能力が拡大・神格化して、絶対精神の哲学となる
精神の働きの法則 = _____ (右図参照)



ヘーゲル右派 …… 国家哲学としてプロイセンの御用哲学化
ヘーゲル左派 …… フォイエルバッハ (唯物論) を経てマルクスへ



_____ (独、1813-83) …… 唯物論, 科学的社会主義
社会を「上部構造」(政治・法律・宗教・道徳・芸術・哲学・科学) と
「下部構造」(物質的・経済的な社会状況) とに分ける
→ 「人間の意識は、社会の物質的下部構造の産物である」

◆ _____ 哲学

「人間とは何か」 = 主体性・創造性の回復をめざす



資本主義の発展 = 賃金労働者の増加 → 人間疎外
近現代における政治・経済機構の巨大化 → 個人の社会への埋没 → 理性への信仰が薄れる

_____ (1813-55、デンマーク、有神論的)、著書『あれかこれか』
「自分にとって真理であるような真理」を見出すことが重要
→ 最後には、不安を抱きながらも、神への信仰に生きる決断に至る
「美的実存」→「倫理的実存」→「宗教的実存」

_____ (1844-1900、ドイツ、無神論的)
著『_____』 …… 「神は死んだ。超人として生きよ!!」
人生に意味はない。(=ニヒリズム)
「無」の人生を「これが人生だったのか」と運命として引受け、
「力への意志」を奮い立たせて力強く生きよ!!
→ 自己肯定的で生命力あふれた生き方を主張

著『力への意志』

全ての生命ものは、一切の抵抗を退け強大になろうとする意志を持っている
キリスト教道徳は「奴隷の道徳」だ!! と批判



ショーペンハウアー (独、1788-1860)
世界の本質は、生存への盲目的意志であり、全ての個体もその現れである。
(⇔ヘーゲルの理性主義の哲学に対抗)

厭世主義 (ペシミズム)
盲目的意志に駆られ、満たされない欲望を追い続ける人生は苦痛。
→ 「生への意志」を否定することによってのみ苦悩から解脱できる。
(インド哲学研究の影響)
※ 「生への盲目的意志」という考え方はニーチェに大きな影響。しかし結論は全く正反対

◇通信

_____ (米、1791-1872) …… 電信機(1837) → 1848年の革命ですでに実用化
_____ (米、1847-1931) …… 蓄音機(1876)、白熱電球(1876)、映画(1893) など
_____ (米、1847-1922) …… 電話(1876)
_____ (伊、1874-1937) …… 無線電信(1895) → 1901年、大西洋を隔てた通信に成功

◇その他、工業

ジーメンス兄弟 (独、兄ヴェルナー 1816-92、弟ヴィルヘルム 1823-83) …… 電気技術者
ジーメンス=ハルスク商会設立(1847)、ロシアの電信網、イギリスで海底ケーブルを建設(のちインド=ヨーロッパ間海底ケーブル)
1879 電車の実用化 → 1881 ベルリンで、1883 イギリスで電気鉄道建設

ダイムラー (独、1834-1900)、ベンツ (独、1844-1929)
1886 両者別個にガソリン自動車開発発明、1926 両社合併しダイムラー・ベンツ社となる
フォード (米、1863-1947) …… 1896 独自にガソリン自動車開発。1899 デトロイト自動車会社 → 1902 フォード自動車会社
ベルトコンベア・システムによる大量生産(1913 ~、T型フォード)

_____ 兄弟 (米) …… 1903年、飛行機発明し初飛行 (待空時間 59秒)

_____ (スウェーデン、1833-96) …… _____ 発明(1867)、遺言により 1901年にノーベル賞設置

◇物理学

ファラデー (英、1791-1867) …… 電磁誘導の法則(1831)
マイヤー (独、1814-78)、ヘルムホルツ (独、1821-94) …… エネルギー保存の法則(1847)

_____ (独、1845-1923) …… _____ の発見(1895)
_____ 夫妻 (仏) …… _____ の発見(1898) (ビエール・1859-1906、マリイ・1867-1934)
※夫人はポーランド出身
放射線の研究 → “原子”の世界へ

◇化学

リービヒ (独、1803-73) …… 有機化学、(→化学肥料の普及)

◇生物学

メンデル (奥、1822-84) …… 遺伝の法則 (しかし DNA はまだ発見されていない)

◇医学

パストゥール (仏、1822-95) …… 狂犬病予防接種
細菌学者として他に乳酸菌・酵母菌の発見など
_____ (独、1843-1910) …… 結核菌・コレラ菌の発見
→ 北里柴三郎 (ペスト菌発見)、志賀潔 (赤痢菌発見) の師

※ _____ (英、1820-1910) …… 看護婦の地位確立、クリミア戦争で活躍
_____ (スイス、1828-1910) …… 1864年、_____ の設立発案

<探検>

タスマン (オランダ、1603-59) …… 1642年、タスマニア・ニュージーランド発見
オーストラリアを周航しながら発見できず、のちにオランダ東インド会社が確認しながら放棄
_____ (英、1728-79) …… オーストラリア・ニュージーランドなど探検
→ ハワイで島民に殺される

_____ (英、1813-73) ・ _____ (英、1841-1904)
…… アフリカ内陸探検 → 列強による植民地化へ

_____ (米、1856-1920) …… 1909年、北極点到達
_____ (ノルウェー、1872-1928) …… 1911年、南極点到達
_____ (英、1868-1912) …… 1912年、南極点到達、先を越されていたのを知り帰途遭難死